

愛知医科大学 学報



アメニティ棟・バスロータリー
(完成イメージ)



(関連記事9頁)

＝ 第145号 ＝

2017. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
キャンパス整備事業	9
平成29年度入学試験開始	12
平成29年度学年暦	14
Smile ～スマイル～	27
教育・研究最前線	34
海外研修派遣研修記	35



—新年のごあいさつ—

理事長 三宅 養三

明けましておめでとうございます。

平成18年から始まったキャンパス再整備は、その本丸である新病院が平成26年5月に開院し、医心館、保育所、立体駐車場や数か所の駐車場の設置、AB病棟の解体等を経て、平成29年度に立石池の外周道路の拡幅工事の竣工を以って完了いたします。10年以上をかけたキャンパス再整備には新病院建設にまつわる幾多の紆余曲折はありましたが、この間の職員の皆さまの御協力によりこの大事業が成就したことには厚く御礼申し上げます。

振り返ってみますと、平成21年から無期限停止となっていた新病院建設開始を平成22年11月に再び開始すると決めた時期が最適であったこと、そのため鹿島建設株式会社との契約が東日本大震災の直前で建築費が最も安価であったこと、大震災による建設費、材料費、建築費の著しい高騰に関係なく最初の契約金で建築が進められたこと、この時期に限り国から多額の耐震補助を受けることができたこと、更に従来研究にのみ向けられていた文部科学省の機器・施設に対する補助金が、平成24年と25年の2年間に限って補助対象要件が緩和され、大学病院に設置される機器でも良いとされたことです。ちょうど新病院に向けて多くの新しい最先端の機器を導入しなければならない矢先でしたので、多くの機器に対してこの補助を受けることができました。その額は22億円以上にもなり、700以上ある私立大学の中でとびぬけて高額でした。

これらの一連の新病院建設に係る資金対策やリーマンショックで全く損失が生じなかった処置等々で、本学は結果的に財務運営に関して極めて順当な方法を選択してきました。新病院建設開始が少しでも遅れたり、リーマンショックの処理を多くの大学同様に行っていたら、全体で290億円ほどの我々の資産が水泡に帰していたとの試算を得ております。

さて、ようやく新病院も軌道に乗り始め、患者さんも色々と改良された医療システムに満足されておられる様子ですが、一方でこれからは私立医科大学にとって本当に厳しい時代が到来しそうです。キャンパス再整備により本学のこれからの発展の舞台が整ったわけですが、

ちょうどこの時期に国は多くの変革を求めてきております。厚生労働省や文部科学省は、健全な経営を求めるとともに医療安全や医療倫理の強化、地域包括ケアシステムの構築、初期臨床研修や専門医制度の改革、国際認証や医学教育分野別評価で示される国際基準を踏まえた医学教育改革、更には英文論文数による研究評価等々で、機能の悪い大学は生き残れない時代がすぐそこにきております。超高齢社会を迎え、日本の医学・医療体制が抜本的な改革を余儀なくされることは致し方ない現実と受け止めるべきであります。

愛知医科大学は周囲だけの小さな世界を眺めてはいけません。他大学がどのような状態か、本学と比較してどのように違うかを正確に見極め、後れを取らないようにしなければなりません。それを軸に競争力の強化を図りたいと思います。経営、教育、研究は医科大学の3本柱です。しかし、経営に重点を置きすぎると教育や研究ができなくなるとか、教育や研究を充実させると経営が疎かになると言う方がおられますが、これは間違っているように思います。多くの医科大学を眺めてみますと教育と研究が充実している大学は必ず経営も順調で、逆に経営の悪い大学は教育・研究も低調です。この3本柱はお互いに連動しながら機能しているようです。

これは当然なことですが経営が順調ということは、多くの患者さんが来院し、高度医療も可能ということで、これは臨床研究にも臨床教育にも役に立ちます。順調な経営は、各講座の良い指導者により導かれると思います。そうです。舞台が整った本学では、これからはヒト（人材）が一番重要なのです。良い人材を勝ち取り（これはどの大学でも一番重要と思っていますので、熾烈な競争です。）、また良い人材を育てることこそ、現時点での本学のグランドデザインなのです。ちょうどこの厳しい時代の到来の直前に新病院が計画通り完成したことは今考えると奇跡のような気もしますが、本当の勝負はこれからです。勝負ができるような状態になったことをまず素直に喜びましょう。

本学はこれから5年後には建学50周年を迎えます。いろいろな懸案に対して5年という目標を掲げ、今年からその目標に向けて邁進して頂きたいと願っております。



— 転換期を迎えた愛知医大 —

学長 佐藤 啓二

明けましておめでとうございます。今年も皆さまにとって明るい希望に満ちた年になりますようお願いしております。

社会情勢

2025年には昭和22年～24年生まれの団塊世代が全て75歳（後期高齢者）になります。64歳以下の一人当たりの医療費を1とすると、65歳～74歳は3倍、75歳以降は5倍となり、高齢化に伴い2015年50兆円であった医療費・介護費は73.8兆円に膨れ上がります。政府の一つ目の対策は消費税値上げです。私立医科大学において消費税増税の影響は、1%増で約3億6千万負担増とされ、看過できない影響を与えます。二つ目の対策は、平成26年6月に成立した医療介護総合確保推進法により2025年に向け「地域医療構想」を策定し、病床数を削減し、家庭医療に振り向けることです。推定人口構成比から推定した診療報酬分布、各病床機能別稼働率、充当できる社会保障費（医療介護費用）等を勘案し、病床機能区分別・必要病床数が試算された結果、2025年の高度急性期病床は13万床（2014年19万床）、急性期40万床（58万床）等大幅削減する方向性が示されています。大胆な病床シフトを進めざるを得ない中、相対的に在宅医療の重要性が増していきます。

教育

二つの大きな活動軸があります。

WFME（国際医学教育連盟）により定められた国際認証は平成31年度受審が決定しました。臨床実習時間を大幅に増加させ、自己学習履歴や学習成果を蓄積し、授業評価等を合わせて教員と学生が情報共有し、改善に向けた持続的なPDCAサイクルを回すことが求められています。

2番目の軸はICTです。教育現場に広くICTが導入されてきた結果、学生・研修医の「情報リテラシー能力—情報活用能力」、 「生涯学習能力」を指導啓発することが教育の中心課題とされてきました。医学情報センター（図書館）と情報処理センターを統合し、来春よりAcademic Media Center（総合学術情報センター）として発足させ、従来組織の2部門に加え、ICT支援部門の立ち上げを予定しています。加えて、医学部にIR室を設

け専任教員を配置する予定です。電子化医学教育情報の有効利用に向け、有機的連携を図りたいと思います。

更に、羽生田正行病院長の下でOn the Job trainingの場であるプライマリケアセンターの充実が図られているほか、地域医療教育学寄附講座に宮田靖志教授（特任）が就任され、地域枠学生の教育実習指導を担当されることになっています。

研究

科研費申請件数増加に向けた2nd Jump up作戦の結果、実行前と比較して123件から196件へ約60%増となりました。平成28年4月に設立した研究創出支援センターは、研究支援部門、共同実験部門、バイオバンク部門の3部門から成り、平成29年1月に研究URA 1名、4月に研究指導担当・バイオバンク担当として1名常勤教員が配置されます。総合医学研究機構と併せて、組織横断的な研究活性化の拠点として機能してくれるものと期待しています。

スキューバダイビングと同じで、飛び込めばまったく違った世界が開けています。ぜひ、愛知医大の若手研究者に経験してもらいたいと希望します。

診療

大学病院は「人材育成」を絶対的の使命としております。平成25年度から五疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）と五事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）を軸とする医療連携体制を構築していくこととされています。これらの医療連携において中核の役割を果たすため、病院機能を充実させ実績作りを進める必要があります。

また、電子カルテ導入により医師事務作業が繁多になっておりますので、医師事務作業補助体制についてはまず100：1体制とし、現行の診断書作成業務から入院サマリー作成業務等へ拡大をさせつつ、補助作業者のリクルートを加速させることにより50：1体制に進めていく予定です。

新しい年を迎え、職員の皆さんがAll Aichi Idaiとして一致団結し、誇れる大学・病院として飛躍できるよう頑張らしましょう。



— We must change to remain the same —

医学部長 岡田 尚志郎

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお
願い申し上げます。

昨年を新年あいさつで、18歳人口減少の2018年問題及
び医学教育分野別評価の2013年問題を取り上げました。
新年を迎えるに当たり、大学を取り巻く厳しい環境を考
えるとき、今後の本学の発展はこれらの問題に正面から
取り組んで乗り越えていくことにかかっているように思
います。

2018年問題による大学進学者の大幅な減少は、大学入
学試験制度の大転換を引き起こし、盤石なはずの旧帝国
大学でさえ志願者確保のために先進的な入試改革を進め
ようとしています。本学においても、入試業務に関わる
教職員の弛まざる努力によって、推薦入試、一般入試、
センター試験利用入試及び愛知県地域特別枠入試と、こ
れまでに様々な入試形態を取り入れ、良質な志願者の確
保に努めてきました。しかし、新たに二つの医学部が誕
生し、競争環境がますます激動する中で、今までどおり
のやり方で良いはずはありません。

ここ数年、文部科学省はグローバル社会に対応できる
若者を育成する観点から、センター試験に代表される旧
来の学力検査にのみ依存した大学入試選抜方式ではな
く、国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）
による選抜の普及・拡大を推進しています。同省のHP
によれば、国際バカロレアとは、国際バカロレア機構（本
部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムで、
1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムと
して、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる
生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとる
ための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的
に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、
大学進学へのルートを確保することを目的として設置さ
れたとあります。

このように入試を巡る新たな潮流が渦巻く中で、本学
では三宅養三理事長の強いご意思の下、平成29年度入学
者選抜から国際バカロレア入学試験を新規に導入し、平
成28年11月19日（土）に実施いたしました。この新しい

入試形態の導入は、本学の質の転換に繋がる記念すべき
出発点となりました。今後は、合格基準を満たす受験生
を確実に獲得したいと考えております。

日本医学教育評価機構（JACME）からの通達によっ
て、本学は平成31年度に医学教育分野別評価を受審する
ことが正式に決まりました。平成31年度を受審に向けて、
まず、平成28年7月に東京医科歯科大学（順天堂大学）
の奈良信雄教授をお招きし、医学教育分野別評価の概説
をFDとして開催し、8月末には三宅理事長及び佐藤啓
二学長にご臨席頂き、たちばなホールにおいて全教員集
会を開催して周知を図りました。また、評価の対象とし
て最も主要な項目である臨床実習の充実を実現するため
に、年末に向けて関係教職員の並々ならぬ努力の結果、
臨床実習を72週確保できる大幅なカリキュラム改訂が具
現化し、平成29年度から入学する新入生に対して開講で
きるようになりました。この内容は、平成28年12月22日
（木）開催の医学部教授会で承認され、受審における核
を創ることができました。

今後は、平成29年度に開講するカリキュラムを実際に
走らせて、その結果を基に自己点検評価書を作成する
という更に荷の重い仕事待ち受けています。平成28年11
月に医学教育分野別評価推進委員会を立ち上げて、評価
書の八つある項目のそれぞれについて、教授の先生方に
責任者となって頂き、まさに作成に取りかかったところ
です。このプロジェクトは基礎科学、基礎医学及び臨床
医学に携わる教員がお互いに協働し、医学部を挙げて取
り組んでこそ達成できると信じています。

アメリカ合衆国では、大方の予想に反してトランプ新
大統領が誕生するなど、世界中で既成の概念や価値観で
は説明のつかないパラダイムシフトが起こりつつあるよ
うに見えます。グローバル時代だからこそ、私たち一人
ひとりが『We must change to remain the same』の気
概を持って、本学の進むべき道を切り拓いて行く必要が
あると思います。



－柔軟性と流動性－

病院長 羽生田 正行

明けましておめでとうございます。

2016年は、愛知医科大学病院にとって真価を問われた年になりました。入院延べ患者数や入院診療単価が上下する中でも、前年を超える診療報酬が得られている点は病院長として、法人や病院職員の皆さまに本当に感謝をしています。

話は変わりますが、本院は「医療福祉建築賞」の一次審査に合格し、昨年12月には、審査委員の方々が来院し、二次審査となる実地調査が行われました。「医療福祉建築賞」というのは聞きなれない賞ですが、一般社団法人日本医療福祉建築協会が主催する顕彰事業で、竣工後1年以上経過した新しい医療福祉施設を対象に優良作品を募り、厳正な審査の上、最も優秀と認められたもの数点に賞を授与するものです。本賞では、デザインだけでなく、利用者の快適性やスタッフの使い勝手といった視点も合わせて、総合的な評価が行われます。つまり、器だけでなく本当にスタッフ、患者さんに視線を合わせて作られているか、そして、それがうまく機能しているかどうかが問われる賞です。本院の歴史の中で、こういった賞を受賞した例はありませんので、ぜひ受賞したいところですが、それにもまして、二次審査の際に自分自身も含め、スタッフが知恵を出し合って作り上げた新しい愛知医科大学病院が本当によく機能していることを改めて確認でき、コンセプトから新病院建設に関わった私としては、嬉しい気持ちで一杯になりました。

私が当時、新病院建設委員会の副委員長であった時の委員長であった佐藤啓二現学長に「病院を建てることに関わる人間は、その意図したことが開院後十分に機能するところまで責任を持つこと。そして、もう一つ、機能している病院を目一杯使って収益を得て、それを次の世代の更なる発展につなげること。」というミッションを

頂きました。私自身、病院長としてこのミッションを達成することを第一の目標としてやってきました。期待された新病院の機能が十分発揮されるまでには、もう少し時間がかかりそうですが、皆さまの応援もあり、この2年間確実に目標達成に近づいていると感じています。今後も引き続きご支援よろしく願い申し上げます。

さて、新病院は前述の通り期待された機能を発揮していますが、想定しなかった課題も新たに出てきています。せっかく建てた病院ですが、建ててしまえば終わりというわけにはいきません。時代や環境に応じて必要なら柔軟に人や組織、そして、構造まで変えていくことが肝要です。体が大きな恐竜は、環境に対応できずに時代の主流から姿を消しましたが、愛知医科大学病院はそういうわけにはいきません。今後、組織に柔軟性と流動性を持たせ、100年先も繁栄する仕組みを根付かせなければなりません。目先の利益も大切ですが、先を見て組織を変え、投資をして次の世代につなげていく勇気と、それを理解する組織が必要な時代になったことを私を含め、職員全員が自覚する年、それが2017年になるのでしょうか。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



— 新年を迎えて、 これからの看護学部の展望 —

看護学部長 白鳥 さつき

新しい年を迎えて、教職員並びに学生の皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。

新年祝賀式におきまして、三宅養三理事長から愛知医科大学の教育理念として「情緒と品格を備えた医療人の育成」が示されました。この教育理念を看護学部運営に反映させ、より質の高い教育を提供し、看護師国家試験合格率の100%維持（2016年実績）はもちろんですが、名実ともに「情緒と品格」を兼ね備えた人材を育成しなければならないと考えております。

大学で看護師を養成する意味は、看護職としてより良い実践を行う人材を社会に送り出すことです。より良いとは高度な知識や技術だけでなく、他者の立場に立てる優しさ、品格、教養、高い倫理観を持ち専門職として活躍できることを指します。近年の医療の動向を見ますと、医師や多職種とともに協働し、チーム医療を担う能力も必要となります。また、新しい看護学や看護技術を創り出す人材の育成も大学の使命です。

看護学部では、このような看護師の育成を目指して、昨年準備してきた新カリキュラムを平成29年度からスタートさせます。新カリキュラムは、時代のニーズに応え、幅広い教養を基盤として資質の高い看護実践者並びに教育・研究者を養成できるよう編成しました。具体的には、実習単位の増加、地域包括ケアシステムを視野に入れた講義内容、広く教養科目を選択できる授業の組み合わせ、基礎的な研究能力を養う科目の設置などを改正のポイントとしました。しかし、カリキュラムを改正しただけでは成果は得られません。成果を確実にものにするためには、運営する教員の資質、教育力を高めなければなりません。これまで、授業評価のフィードバックの検討やFD（Faculty Development）の充実、研究支援などに取り組んできましたが、まだまだ課題は多いと考えます。一方で、学生も与えられるだけの教育に甘んじていては専門職業人としての成長は期待できません。人生の四大イベントといわれる生・病・老・死の何れの場面にも深く関わるのは看護師（職）なのです。故に、自ら「看護を職業として選択したこと」を再確認し、看護専門職に必要な「情緒と品格」を追求し続ける姿勢がとても重要になります。

さて、看護教育について概観してみますと、看護制度・教育は戦後、GHQが日本の医療に内在する封建制を払拭する目的で指導を行い、飛躍的に発展してきました。

医師の手足となって働いてきた江戸時代から始まり、現代ではチームで互いの専門性を尊重できる存在に近づきつつあると考えています。看護系大学は、平成28年で246校254課程となり、看護教育の高等化がようやく実現しました。しかし、まだまだ看護学は発展途上にあり、医学を始めとした周辺領域の学問の力を借りる必要があります。日本の国立アカデミーである日本学術会議に登録学会として看護系の学会（日本看護科学学会）が認められたのは1987年と、つい最近のことでしたが、現在は10の看護系学会が登録されております。また、2016年の日本看護系学会協議会の会員数は42学会となり、看護学の研究が躍進していることが分かります。このように歩みは遅いのですが、学術的な進歩を着実に進めているといえます。これから将来の看護界の発展を担うのは、学士を取得する皆さんの役割です。どうか、その気概を持って看護専門職を目指して頂きたいと思えます。

愛知医科大学は、新病院開院3年目を迎え、新たなランドデザインを描く時期を迎えました。超高齢社会における保健・医療・福祉の新たなランドデザインは、住み慣れた地域で豊かな療養生活を送れるための統合的な高齢者ケアシステムの構築とシームレスな医療の提供ではないでしょうか。そのためには、看護のマンパワーの確保、地域やコミュニティのケア力の向上が必要です。医学部、大学病院はこれらを視野に入れた次のステップに向けて躍進していますが、看護学部も後れを取らないよう教職員が一丸となって努力しなければなりません。一つの方向性として、本学が取り組んでいる高度実践看護師コースにおける診療看護師（JNP：Japan Nurse Practitioner）の養成があります。同コースの感染症看護専門看護師は、既に本学が東海地区における拠点となって活躍しておりますが、JNPの養成と活躍範囲の拡大が今後の鍵となります。JNPの活躍範囲を地域に拡大することで、その地域に暮らす人々のニーズに応えられる医療の提供が実現できると期待します。JNPの養成も法的整備の問題やカリキュラムの見直しなど課題が山積みですが、本学から未来に向けて道を開くことに挑戦したいと思えます。

新しい時代にふさわしい組織作りのために、これからも皆さまのご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

役員・名誉教授・教授懇親会開催

平成28年12月22日（木）午後6時30分から名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中ご出席頂いた64名の諸先生方は、久しぶりにお顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。

初めに三宅養三理事長からあいさつがあり、続いて、名誉教授を代表して稲福繁名誉教授のあいさつの後、山

内一征理事の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。懇親会では、今年新たに就任された理事、教授の先生やご参加頂いた各先生から近況報告や抱負などのあいさつがありました。

最後に佐藤啓二学長からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

平成29年新年祝賀式

平成29年1月4日（水）午後2時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、初めに三宅養三理事長から「昨年、厚生労働省による特定共同指導と会計検査院による実地検査がありましたが、ともに高い評価を得て終わることができました。これもひとえに全職員の献身的な努力の賜物であります。平成29年度には、10年以上をかけたキャンパス再整備が完了し、新たな勝負の舞台が整います。この舞台で、情緒と品格を備えた医療人の育成という理念の下、飛躍的な発展を目指しておりますので、全職員の更なるご協力をお願いしたい。」とあいさつがあり、

続いて、佐藤啓二学長から「医療は転換期を迎え、地域医療構想の下、高度急性期病床等を削減する方向性が示されています。これから本学は、二次医療圏を超えて患者をリクルートできる実績と信頼を築いていかなけれ



あいさつする三宅理事長

ばなりません。大変厳しい環境が待ち構えていますが、この難局を乗り越えることで、より強力な愛知医科大学・病院になると信じています。全職員一丸となって、新病院建設時の困難を乗り越えたように、今年も力を合わせて頑張りましょう。」とあいさつがありました。

平成29年長久手市消防出初式

平成29年1月8日（日）長久手市東小学校において、平成29年長久手市消防出初式が行われ、本学自衛消防隊12名が参加しました。

長久手市では、出初式の会場を毎年輪番制としており、今年は郊外にある同校において開催されました。

第一部では、地域の児童による「出初式」のプラカードを持っての分列行進から始まり、観閲・表彰・一斉放水が行われました。本学自衛消防隊は、消防署・消防団・女性消防クラブ・応急救護ボランティアに続き、入場行進の最後尾を飾り、勇姿を披露しました。

また、第二部では、市内の中学生による吹奏楽の演奏、消防防災団体による展示、消防防災体験等のイベントが各ブースで行われ、大変寒い中、集まった大勢の市民で賑わいました。

地域貢献、防災意識の普及高揚を図り、災害のない街づくりの発展に寄与することを目的に、これからも事業所自衛消防隊としての参加を予定していますので、ご協力の程お願いします。



入場行進



記念撮影

古橋弘子元看護部副部長

秋の叙勲の栄誉

本院看護部元副部長の古橋弘子さんが、平成28年秋の叙勲において、瑞宝単光章を授与され、平成28年11月10日（木）国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

古橋元副部長は、本学の設立間もない昭和47年、暫定病院で診療を始めた時期から学業と両立しながら看護業務に従事され、昭和57年には本学看護専門学校の第1回生として卒業されました。

昭和56年には、本院に開設されて間もない救命救急センターのHCU病棟を担当し、緊急性や高度な治療を要する重篤患者の看護業務に取り組みました。リーダーシップとマネジメント力を磨きながら、主任、師長と昇格された後、平成7年には、救命救急センターの師長として、ICU、HCU、ERをマネジメントし、ドクターヘリ事業の導入準備においては、フライトナースの育成体制作りに努め、平成14年の事業開始に貢献されました。

平成15年からは、副部長として看護部全体の教育、業務改善活動を担当され、平成18年から新病院建設委員会委員として、物流を始めとした様々なワーキンググループを担当され、平成26年の新病院開院に貢献された後、平成27年3月末にご退職されました。



小池部長と古橋さん

授与された古橋さんから「この度、このような名誉ある章を頂くことができましたことは、看護師として育ててくださった方々のご指導、ご支援の賜物と深く感謝しております。看護の道に導いてくれた母に親孝行ができましたし、その道を歩めるよう支えてくれた家族にも恩返しもでき、とても嬉しく思っています。」と感想がありました。

平成28年度永年勤続者表彰

平成28年11月22日（火）大学本館たちばなホールにおいて、平成28年度永年勤続者表彰式が行われました。

当日は、三宅養三理事長から被表彰者へ表彰状が授与され、お祝いとお礼の言葉とともに本学の歴史を振り返られ、「少子高齢化を背景に医療制度や医科大学の在り方が変わり、ますます厳しい時代になるわけですが、キャンパス再整備も振り返ってみれば最高の計画で進み、勝負ができる盤石の構えとなりました。どうか10年表彰の方は20年表彰式で、20年表彰の方は30年表彰式でお目にかかりたいと思っています。」とあいさつがありました。また、被表彰者を代表して、産婦人科学講座の藪下廣光教授（特任）から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。

永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる藪下教授（特任）

30年勤続者（12名）

梅沢 直美 金子 吉文 小林 武男 阪井 孝峰 中尾 直樹 成田 憲治 馬杉 須美
 宮川 博文 藪下 廣光

20年勤続者（16名）

縣 裕篤 伊藤 誠 篠邊龍二郎 寺田 達夫 中井公仁枝 長沼 知子 廣田 俊介
 松岡 美江 水谷 卓史 村井 利行 山極真希子 吉田 眞理

10年勤続者（64名）

阿部加代美 嵐山 裕介 幾島由香里 江上 直美 大石 久美 大須賀浩二 大野 隆之
 小澤 和弘 角 育男 片岡 卓也 勝 啓佑 勝田 英介 加藤 美樹 加藤 泰子
 河瀬佐由李 小塚 聡 堺 宣博 佐藤 祐輔 地方 康則 下村 保人 鈴木 隆佳
 高安 正和 立津 朋子 田中 容子 多和田有花 津下和貴子 手塚 剛彦 内記 良一
 内藤 博文 中西 千晶 中野 健太 西山 駿介 野村 敦彦 長谷川淳一 畑田 真宏
 花村 一朗 分造 亜希 細川 好孝 水谷 朝子 武藤 大輔 柳瀬 圭司 山下 恵

（92名：五十音順・敬称略） ※氏名掲載は希望者のみ

キャンパス整備事業 バスロータリー・アメニティ棟の整備

平成18年から始まったキャンパス整備事業は、平成26年5月の新病院（中央棟）が開院してから約2年8カ月が経過し、旧A・B病棟等が解体され、着々と新施設の整備が進んでいます。

現在計画されている跡地利用の内容についてご紹介します。

<完成イメージ>

病院へアクセスがしやすくなります

バスロータリー

平成29年4月利用開始予定

病院に隣接した場所には、バス専用のロータリーができます。今後、名鉄バスの新規路線導入の計画もされていることから、バスの停車スペースを拡大し、病院まで雨に濡れずに移動できるようにするなど、利用する方々に快適に使う頂ける待合空間ができます。

病院の玄関には、バスロケーションシステム（運行状況の表示）を設置し、待ち時間の可視化により、利便性の向上を図ります。



バスロータリー

快適な時間を過ごして頂く場所を提供

アメニティ棟

平成29年6月オープン予定

バスを待つ間に利用頂ける売店やフードコートがバスロータリーに隣接して設置されます。3階建ての建物で、1階にはコンビニと医療用品販売店、2階には気軽に飲食ができるフードコート、3階には主に教職員が利用する交流ラウンジができます。車いすでも利用可能なトイレやエレベーターが完備され、2階のフードコートでは、立石池越しに見える名古屋方面の街並みを眺めながら、ゆったりと過ごすことができます。



アメニティ棟

車での混雑を緩和します

平面駐車場

平成29年6月利用開始予定

車での来院患者さんには、主に立体駐車場を利用頂いていますが、平日の午前中は混雑しているため、病院入口の交差点（T字路）に近い場所に整備される110台分の平面駐車場は、病院の前を通る道路からも混雑状況が分かりやすく、スムーズに駐車が可能です。



平面駐車場

気持ちの良い散策空間を創造

キャンパスコート

平成29年6月利用開始予定

中央棟と立石池の間には、芝生や樹木を植えた緑の丘になります。桜並木やツツジ、アジサイといった四季折々の花を楽しみながら、患者さんがリラックスして散策できるように整備されます。



キャンパスコート

愛知警察署感謝状の贈呈

本学が日頃から警察業務へ積極的に協力するとともに、安心して安全なまちづくりに大きく貢献したことに對して、平成29年1月13日付けで愛知警察署長から感謝状が贈呈されました。【写真】

これは、本学職員の大学付近の交差点での交通安全県民運動に係る街頭活動への積極的な参加や、本学が定期的に医学部、看護学部の学生を対象に警察関係者による「交通安全講習会」を開催することで、交通事故を防止するための交通マナーの普及及び交通安全意識の高揚を図ることに努めていることに対して贈られたものです。

本学は医科大学として、医療だけでなく、地域住民の皆さんとともに安心・安全な生活が守られるよう、今後も様々な方面で貢献して参ります。



平成28年度冬のハラスメント防止活動

平成28年12月4日（日）から12月10日（土）の人権週間因んで、ハラスメントの防止に向けた啓発活動を次のとおり実施しました。

ハラスメント防止イベントを実施の結果、DVD放映には2日間で延べ14名の参加がありました。DVD視聴者の評価としては「大変良い」・「良い」を選択しており、アンケートにおいても「認識を新たにできた。」「このような機会を増やしてほしい。」「自分の言動を振り返る機会となった。」など好評を得ました。

また、臨時相談窓口へも相談を頂きました。困った時は一人で悩まず、携帯用の「啓発カード」にある相談窓口の専用電話番号や専用メールアドレスを利用して相談するように心がけて頂きたいと思います。ハラスメント防止ポスターの掲示については、職員や学生の目につくパブリックスペースへの掲示を行い、広くハラスメント防止の注意喚起を促しました。

今後、更に「ハラスメントのない明るい職場作り」にご協力をお願いします。

実施概要

- 1 期 間 平成28年12月7日（水）・8日（木） 12：30～18：00
- 2 場 所 702会議室（大学本館7階）
- 3 対 象 者 全職員（自由参加）
- 4 内 容
 - (1) ハラスメント防止DVDの放映（1本約20分）
 - ・12月7日（水）セクハラのない職場づくり（4種類）
 - ・12月8日（木）パワハラのない職場づくり（4種類）
 - (2) 臨時相談窓口の設置
 - (3) ハラスメント防止ポスターの学内掲示



＝ 地域連携 ＝

尾張旭市との健康講座開催

平成28年12月10日（土）午後2時から尾張旭市のスカイワードあさひ5階くすのきホールにおいて、尾張旭市の健康講座が開催され、医学部衛生学講座の鈴木孝太教授が「自分で、そしてみんなで守る健やかな暮らし～病気の予防いろいろ～」と題して講演を行いました。

本学と尾張旭市は、平成25年10月に包括連携協定を締結していますが、今回初めて同市の健康都市推進室と連携し健康講座を開催しました。この健康講座は、毎年同市が開催しているもので、先着50名の定員が募集開始後すぐに超過するほどの人気講座です。

当日は、鈴木教授からオーストラリアでの研究紹介に始まり、喫煙や肥満に関する生活習慣病の基礎知識、健康の社会的決定要因、予防の考え方にいたるまで、様々な写真や質問を交えながら講演が行われ、参加者は楽しみながら健康について学べる講座となり、大変な好評を



講演する鈴木教授

得ました。

今後も本学は、各市との連携を活かしながら、地域医療の推進に寄与していきます。

愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）開催

平成29年1月21日（土）長久手市文化の家「風のホール」において、愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）が開催されました。

今年の公開講座は、「救急医療」をテーマに「楽しく学べる救急講座」と題した講演及び講習を行い、約90名の市民の方々にご参加頂きました。

始めに、佐藤啓二学長から開講のあいさつがあった後、救命救急科の武山直志教授から救急医療システムの歴史や死因上位疾患、心配蘇生法の重要性について分かりやすく講演がありました。

引き続き、「やってみよう！ AEDと心臓マッサージ」と題した講習では、長久手市消防署員の皆さんのご協力の下、壇上に訓練人形とAEDを並べて、胸骨圧迫による心配蘇生とAEDの使い方を体験し、参加された受講者は熱心に取り組まれました。

最後に、長久手市消防本部の吉田弘美消防長から閉会のあいさつがあり、盛会裏に終了しました。

受講者からは、「実際にAEDに触る機会を頂き、とても役に立った。」「講習で身に付けた知識を家族や友人にも伝えたい。」「万が一の時は、勇気をもって対処したい。」などの感想を頂きました。

本学では、今後も長久手市と連携して定期的に公開講座を企画して参ります。



講演する武山教授



心肺蘇生を実践する参加者の皆さん

平成29年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●推薦入学試験

<公募制>

- ①試験日 平成28年11月19日(土)
- ②志願者数 129名
- ③受験者数 122名
- ④合格者発表 平成28年11月24日(木)
- ⑤合格者数 25名

●国際バカロレア入学試験

- ①試験日 平成28年11月19日(土)
- ②志願者数 2名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 平成28年11月24日(木)
- ⑤合格者数 1名

●一般入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成29年1月24日(火)
- ②志願者数 2,133名
- ③受験者数 2,000名
- ④合格者発表 平成29年1月30日(月)
- ⑤合格者数 415名

<第2次試験>

- ①試験日 平成29年2月2日(木)・3日(金)
- ②合格者発表 平成29年2月9日(木)

●大学入試センター試験利用入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成29年1月14日(土)・15日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成29年2月9日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 平成29年2月16日(木)
- ②合格者発表 平成29年2月23日(木)

●愛知県地域特別枠入学試験

<A方式>

- ①試験日 平成28年11月19日(土)
- ②志願者数 16名
- ③受験者数 16名
- ④合格者発表 平成28年11月24日(木)
- ⑤合格者数 3名

<B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 平成29年1月14日(土)・15日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成29年3月6日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 平成29年3月10日(金)
- ②合格者発表 平成29年3月16日(木)

《看護学部》

●推薦入学試験

<指定校制>

- ①試験日 平成28年11月5日(土)
- ②志願者数 17名
- ③受験者数 17名
- ④合格者発表 平成28年11月15日(火)
- ⑤合格者数 17名

<公募制>

- ①試験日 平成28年11月5日(土)
- ②志願者数 54名
- ③受験者数 54名
- ④合格者発表 平成28年11月15日(火)
- ⑤合格者数 13名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 平成28年11月5日(土)
- ②志願者数 2名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 平成28年11月15日(火)
- ⑤合格者数 1名

●一般入学試験

- ①試験日 平成29年1月29日(日)
- ②志願者数 587名
- ③受験者数 575名
- ④合格者発表 平成29年2月10日(金)

●大学入試センター試験利用入学試験 (A方式・B方式)

- ①試験日 平成29年1月14日(土)・15日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:
平成29年2月10日(金)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系、臨床医学系各専攻合わせて12名
- 2 出願期間
平成29年1月4日(水) から
平成29年1月13日(金) まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は、学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 平成29年2月10日(金)
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10:00 } 12:00	外国語(英語)[辞書使用可, 電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は、英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13:00 }	面接試問(志望する専攻分野に関連する専門試験を含む)

- 4 合格者発表
平成29年2月24日(金) 午後1時
- 5 入学手続期間
平成29年2月27日(月) から
平成29年3月6日(月) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部庶務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
看護管理学, 母子看護学, 慢性看護学, 精神看護学, 老年看護学, 地域看護学, 感染看護学, クリテikalケア看護学の各領域合せて9名
※クリテikalケア看護学領域は、高度実践看護師(診療看護師)コースのみ募集
- 2 出願期間
平成29年1月10日(火) から
平成29年1月23日(月) まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は、学力試験, 小論文, 面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 平成29年2月8日(水)
②試験科目及び時間等

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:30	小論文
10:45 ~ 12:15	専門科目(※)
13:15 ~	面接

※専門科目の出題について

- ①修士論文コース: 志願する専攻領域
 - ②高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース:
CNS関連分野
 - ③高度実践看護師(診療看護師)コース: 関連領域の病態生理学
- 4 合格者発表
平成29年2月15日(水) 正午ごろ
 - 5 入学手続期間
平成29年2月16日(木) から
平成29年2月22日(水) まで
 - 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係

平成29年度学年暦のご紹介

平成29年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介いたします。

医 学 部	
4月1日	前学期開始
4月3日	前学期授業開始（5・6学年次）
4月4日	入学式
4月5日・4月10日	新入生ガイダンス
4月6日～4月7日	1学年次合宿研修
4月7日	学生定期健康診断（5・6学年次）
4月10日	前学期授業開始（2～4学年次） 学生定期健康診断（1・2学年次）
4月11日	学生定期健康診断（3・4学年次） 前学期授業開始（1学年次）
5月19日	6学年次総合試験A
5月22日～5月26日	4学年次定期試験
5月26日	3学年次定期試験
5月29日～6月2日	1学年次早期体験実習 （シミュレーションセンター実習）
7月11日～7月14日	1学年次早期体験実習 （看護体験実習）
7月18日～8月27日	夏季休業（3学年次）
7月24日～8月1日	4学年次定期試験
7月24日～8月27日	夏季休業（1・2学年次）
7月29日	6学年次pccOSCE 5学年次pccOSCE体験
7月31日～9月3日	夏季休業（5・6学年次）
8月2日～9月3日	夏季休業（4学年次）
8月28日	後学期授業開始（1学年次）
8月28日～9月8日	2学年次定期試験
9月1日	5学年次臨床実習試験A
9月5日	4学年次共用試験CBT
9月4日～9月8日	1学年次早期体験実習 （臨床科見学実習）
9月4日～9月15日	3学年次地域包括ケア実習
9月11日	後学期授業開始（2学年次）
9月25日～10月11日	3学年次定期試験
10月5日～10月13日	4学年次地域医療早期体験実習
10月7日	4学年次共用試験OSCE
10月12日	3学年次アーリーエクスポージャー 後学期授業開始（3学年次）
10月16日	後学期授業開始（4～6学年次）
10月16日～10月17日	6学年次第1回総合試験B
10月18日	総合防災訓練（1～3学年次）
10月27日	3学年次定期試験
11月2日	解剖慰霊祭 4学年次白衣式
11月4日～11月5日	医大祭
11月20日～11月21日	6学年次第2回総合試験B
11月22日～11月24日	3学年次定期試験
12月18日～1月4日	冬季休業（1学年次）
12月18日～1月3日	冬季休業（2～6学年次）
1月4日～1月10日	3学年次定期試験
1月9日	5学年次臨床実習試験B
1月19日～1月31日	2学年次定期試験
2月5日～2月16日	2学年次地域社会医学実習
2月7日～2月9日	3学年次定期試験
2月19日～3月2日	2学年次チーム医療実習
3月3日	卒業証書・学位記授与式
3月12日～3月31日	春季休業（1～3・6学年次）
3月19日～3月31日	春季休業（4・5学年次）

看 護 学 部	
4月4日	入学式
4月5日・6日・10日	新入生ガイダンス
4月5日	前学期授業開始（2・3・4学年次）
4月7日	新入生研修（1学年次）
4月10日	学生定期健康診断（2・3学年次）
4月11日	前学期授業開始（1学年次） 学生定期健康診断（1・4学年次）
7月10日～7月14日	2学年次定期試験
7月14日	4学年次定期試験
7月24日～7月31日	1・3学年次定期試験 夏季休業
9月19日	後学期授業開始（1～4学年次）
10月14日	キャンドルセレモニー（2学年次）
10月18日	総合防災訓練（1・2学年次）
11月4日～11月5日	医大祭
12月12日～12月18日	2学年次定期試験 冬季休業
1月29日～2月2日	1学年次定期試験
2月8日～2月9日	3学年次定期試験 春季休業
3月3日	卒業証書・学位記授与式

寄附講座の設置

平成28年11月1日日本学医学部に「地域医療教育学寄附講座」を新たに設置しました。
概要は次のとおりです。

地域医療教育学寄附講座

1 設置目的

地域医療に従事するために必要な総合的な診療能力を有する医師の養成とその他の地域医療に関する研究を行うとともに、その研究成果の普及啓発を行い、地域医療の向上と県民の健康増進に寄与する。

2 事業内容

- (1) 地域医療の重要性を認識し、貢献を使命として献身する医師を養成するための卒前・卒後一貫教育カリキュラムの開発及び実施
- (2) 住民の視点に立った地域医療ニーズの調査
- (3) 現状の地域医療における問題点等の調査及びその解決策の研究
- (4) 地域の医療機関における臨床研修指導医等への支援
- (5) (1) から (4) までの研究成果に関する普及啓発
- (6) 地域卒医師（学生）に対する指導・相談窓口業務

3 設置期間

平成28年11月1日から平成31年3月31日まで（2年5か月）

4 設置場所

愛知医科大学医学部

5 寄附講座職員の構成

教授（特任） 宮田靖志

6 寄附者名

愛知県

7 寄附金額等

寄附総額4,833万3千円

平成28年度愛知医科大学不老会会員の集い開催

平成28年11月5日（土）午前10時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成28年度愛知医科大学不老会会員の集いが開催されました。

当日は、不老会の役員及び各地域代表、本学部会会員並びに一般の方82名の参加があり、本学からは、岡田尚志郎医学部長、解剖学講座の中野隆教授及び内藤宗和教授、そして、関係教職員19名並びに医学部学生25名が参加しました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、岡田医学部長及び不老会愛知医科大学部会の藤内美也子副部会長のあいさつがあり、来賓の北村直哉不老会理事長からごあいさつを頂きました。

最後に、学生体験を医学部学生の代表として3学年次生の羽田野雄揮さんから「解剖学実習では、机上で学んできた解剖学の知識を自身の手と目で学ぶことにより、立体的な構造として認識することができました。それにより、自身の理解を深めていくだけでなく、一回の実習のたびに、新たな疑問や課題が分かり、解剖学の理解をより一層深めることができました。現在、私たちは3年生となり、臨床医学的な内容を学んでおります。しかし、どの分野や疾患においても、正常な機能や構造の理解なしには身に付けられるものではなく、まさに、この解剖学実習で学んだことが、私たちの基礎となっております。



あいさつする岡田医学部長

不老会会員の皆さま方、また、ご家族の方々のご理解とご厚意に深く感謝し、私たち一同、心からお礼申し上げます。」と感謝を込めた発表がありました。

会員の集いに引き続き、医学部脳神経外科学講座の大須賀浩二教授（特任）から「脳の健康のために」をテーマに記念講演が行われ、参加者に分かり易く講演されました。

その後、大学本館1階レストラン「オレンジ」において、参加者と医学部学生及び教職員との昼食・懇談会が和やかに行われ、参加者は医学部学生、教職員が見送る中をそれぞれ帰途につきました。

白 衣 式 挙 行

平成29年1月5日(木)午後3時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成28年度白衣式が挙行されました。

白衣式では、共用試験CBT・OSCEに合格し、後期課程への進級及び臨床実習の実施が認定された医学部4学年次生に対して「Student Doctor」の称号を授与します。学生は新しい実習衣を着て、白衣式に臨みました。

まず、岡田尚志郎医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり、代表者にStudent Doctorの証書及びワッペンの授与が行われました。

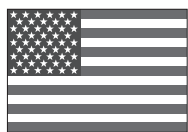
続いて、学生代表の長嶋愛さんから「医療現場でしか得られない様々なことを学ぶため、日々勉強し、常に自分で考え、目的を持って行動したいと思います。本日から、Student Doctorの自覚と責任を持ち、患者さんを始め医療チームの方々からも、『一人の医療者』として認められるよう、より一層努力していくことを誓います。」と代表の言葉がありました。

また、三宅養三理事長、佐藤啓二学長、羽生田正行病院長、小池三奈美看護部長からも激励のあいさつがあり、



代表の言葉

終わりに、学生代表の木村元哉さんが宣誓文を読み上げ、全員が復唱するという形で学生宣誓が行われました。この宣誓文は、これから臨床実習に臨むに当たっての心構えなどを事前に学生自身がグループワークを行い話し合っただけで作成したものであり、自分たちで考え、言葉にすることで、自らの臨床実習への意識付けや行動規範とできるよう、学生たちの手により従来のものを改めました。白衣式終了後、ステージ上において記念写真を撮影した後、レストランオレンジで教員との懇親会が開催されました。



国際交流

アメリカ南イリノイ大学医学部教員来学

本学医学部では、平成17年3月からSIU(南イリノイ大学)との学術国際交流を行っており、教員の招へいや相互に学生の派遣・受け入れを行っています。

例年本学からは、医学部5学年次生を対象とした臨床実習に参加するコースと、3・4学年次生を対象としたSIU2年生カリキュラムを受講するコースの二つのコースへ学生を派遣していますが、この学生の受入れに多大なご協力を頂いているSIUのJ. Kevin Dorsey先生(内科学講座・教授、前医学部長(2001年～2015年))及びJohn D. Mellinger先生(外科学講座(一般外科)・教授)が、平成28年11月1日(火)、2日(水)に来学され、本学の視察や学生・教員と交流を深めました。

今回の来学では、三宅養三理事長、佐藤啓二学長、岡田尚志郎医学部長への表敬訪問、ご来学された先生方による学習環境の最適化への医学部長としての取組みや外科医学における新技術の活用に関する講演が行われました。SIUは、先駆的な教育カリキュラムの開発と充実した医学教育システムの整備を重点的に行っており、この講演では、これらに関する知識や理解を深める良い機会となりました。また、SIUへ派遣予定である医学部5学年次生に対するケースプレゼンテーションの指導だけでなく、同3・4学年次生に対しても、SIUで行われているPBL(問題立脚型学習)や医療英語について指導頂きました。指導後には、派遣学生との懇談会も行われ、



記念撮影

学生にとっては指導を受けた際の緊張感から解放され積極的に先生方とコミュニケーションを図り親睦を深めることができ、また、派遣に向けての新たな学習課題を形成できる良い機会となり、モチベーション向上へと繋がったようです。

このように、例年のSIU教員の来学は、両大学の相互交流の更なる発展に大いに役立っています。医学部では、今後も引き続き学術国際交流協定校等の開拓に努め、更に多くの学生に海外留学へのチャンスを与え、また、海外の学生の受入れを通して、学生が国際的な視野を広げる一助になるよう一層努力して参ります。

医学部2学年次外来案内実習実施

平成28年12月13日（火）～15日（木）の3日間にわたり、中央棟において、医学部2学年次の授業科目「医学・医療と社会」の一環として、外来案内実習（患者さんエスコート実習）が実施されました。

この実習は、医学生として患者さんの診療に受付から同行し、患者さんがどのように診療を受けているか、また、医療の実態を知ることによって医療がどうあるべきか、医師はどのようにあるべきかを自分自身に問いかけることを目的とし、2学年次生111名が参加しました。更にこの実習では、患者さんとのコミュニケーションの大切さを学び、将来、医師となる上での自覚を深め、日々の学習に活かすことも期待されています。

実習初日、中央棟オアシスホールに集合した学生は、科目責任者の鈴木孝太教授（衛生学講座）を始め、関係教員の指導の下、来院患者さんに付き添いの承諾を得ることから始めました。多くの学生は、緊張した面持ちで声をかけていましたが、診察や検査などの待ち時間に患者さんと良好なコミュニケーションを築き、学生たちが付き添った患者さんからは「親切にしてもらい、心強かった。」などの感謝の言葉を頂きました。また、学生たちも患者さん一人ひとりと密に接することの大切さを実感したようです。

医学部では今後もこの実習を継続し、患者さんの立場に立てる良き医師の育成に努めていきます。



患者さんを案内する学生

学生向けハラスメント防止講演会開催

平成28年12月13日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、学生を対象に21世紀職業財団ハラスメント防止コンサルタントの岩月律子氏を講師に迎え、ハラスメント防止講演会が開催されました。【写真】

岩月講師からは、まず代表的な六つのハラスメント（セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメント、アルコールハラスメント、ジェンダーハラスメント、アカデミックハラスメント）の基礎的な説明がありました。その後、アカデミックハラスメントについては自分の加害者度を、また、パワーハラスメントについては逆に被害者度を、それぞれのチェックリストを用いてチェックし、その内容について解説して頂きました。

また、ハラスメントの被害にあっているときの対処法や法的責任についての説明があり、参加した350名余の



学生は熱心に聞き入っていました。

この講演会で得た知識を活用して、ハラスメントのない大学生活を送ることを期待します。

臨床実習に関する医学教育講演会開催

平成29年1月12日（木）大学本館たちばなホールにおいて、自治医科大学医学教育センター・教授の岡崎仁昭氏をお招きして、医学教育講演会が開催されました。

今年度3回目となる今回の講演会では、全国の大学医学部が現在整備を進めている診療参加型実習に関して、自治医科大学の先進的な事例をご講演頂きました。

平成31年度に本学が受審する予定の医学教育分野別評価においては、卒前医学教育期間の3分の1を臨床実習に当てることが求められており、本学も来年度から導入する新カリキュラムでは、72週の診療参加型実習を行うことになっています。

自治医科大学では、共用試験OSCEを3学年次に実施、

4学年次の前期には臨床実習の準備教育に充て、その後診療参加型臨床実習に入るという先進的なカリキュラムを構築しています。準備教育の充実、診療チームへの学生参加のための屋根瓦式教育体制の整備、地域基盤型教育の導入、臨床実習終了後のOSCEの充実を含めた評価体制の充実など、臨床実習を実際に診療参加型にするにはどうすべきか、次年度以降に本学が早急に取り組むべき課題について、具体的な解決策を多数ご紹介頂きました。

参加した教員は、各診療科で今後の診療参加型臨床実習の教育プログラムをどう整備するかについて多くの示唆が得られました。

第43回医大祭に寄せて

実行委員長 医学部4学年次生 武内 優子

平成28年10月29日（土）、30日（日）に第43回医大祭が開催されました。【写真】

今年のテーマは「Be unique ～医かしたやつら～」でした。伝統ある医大祭を私たちなりに全力で受け継ぎ、盛り上げていきたいという思いが込められています。また、将来、医療現場という人と人とのコミュニケーションが軸となってくる職につく私たちにとって、普段の学生生活、机の上の勉強だけでは得にくい、多くの人とのつながりを持ち成長していけたらと思い、このテーマに決定しました。

医大祭実行委員を中心に学年の壁を越えて団結し、準備、運営して参りました。この医大祭を通して、新しい友人や仲間を見つけ、また、学外の方々、特に日頃見守って頂いている地域住民の皆さんと関わりを持ち、人間として、将来の医療従事者として、皆で成長できるきっかけになったと思います。そして、この経験を後輩に伝えていくことで、来年度以降も学生が一丸となって新たな医大祭に向かって進んでいけることと思います。

最後になりましたが、医大祭に関わって頂いた方々の多大なご協力により今年も成功を収めることができました。ここに深く感謝申し上げます。



平成28年度第3回医学部FD開催

平成29年1月19日（木）大学本館たちばなホールにおいて、東京医科大学医学教育学分野・教授の泉美貴氏をお招きして、第3回医学部FDが開催されました。

第1部の特別講演では、既に分野別評価の受審を経験した大学として、東京医科大学の分野別評価受審に向けた医学教育の改革の具体を示して頂くとともに、受審当日の様子を紹介頂きました。東京医科大学が医学教育改革をどのようなポリシーの下、実際どのように進めてきたのか、その具体的内容をご講演頂いたことは、とても有意義なものとなりました。

また、アクティブラーニングの方法、特に教育資源が乏しい中でのPBL実施の方法、教え過ぎないという教育

方針については、本学が予定している新カリキュラムを次年度から導入するにあたって大きなヒントになりました。

講演後の第2部では、本学が来年度から導入する新カリキュラムの詳細について、カリキュラムWG教員から紹介されました。導入されるアウトカムに基づく新カリキュラムは、これまでのものとは大きく異なり、全教員が新カリキュラムの理念と全体像を理解してアウトカム達成を目標に学生教育を行っていくことが求められます。プレゼンテーション後の熱心な質疑応答は、次年度以降行動に移されることを十分に予感させるものでした。

平成28年度第2回大学院医学研究科FD特別講義

平成29年1月20日（金）に大学本館301講義室にて、大学院医学研究科FDとして特別講義が開催されました。今までは、医学部と合同で開催されていましたが、今年度からは医学研究科単独により開催されました。

今回は、講師として長崎大学医学部消化器内科学・教授の中尾一彦氏をお招きし、「癌標的療法の原理と臨床応用（消化器癌を中心に）」をテーマとして、分子標的

薬での治療や発現の仕組みに関する最新の知見についてご講義頂きました。

本学の多くの大学院医学研究科の担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上につながるものとなりました。今後も、引き続きFDの講義を開催し、更なる授業内容・方法を改善し、向上させて参ります。

平成28年度第1回看護学部・看護学研究科FD（若手教員教育セミナー）開催

平成28年9月6日（火）、9月14日（水）、平成29年1月6日（金）の3日間を通して、効果的な教育実践を行うための基礎知識の習得と実践での活用を目的として、看護学部における若手教員を対象としたFDセミナーが開催されました。

講師は、看護学部老年看護学の八島妙子教授及び精神看護学の茅喜田恵子教授が担当され、第1回目は、八島教授から大学における看護学教育過程の構造と特徴、看護学教育における倫理指針等の基本的な考え方の講義が行われました。八島教授は、学生を主体とした授業に向けて、謙虚に教育研究に取り組んでもらいたいと話されました。第2回目を担当された茅喜田教授からは、授業設計、授業の組織化、授業成立の要件、教育評価等についての講義が行われました。第3回目は、これまでの講義に基づき、受講者が作成した授業計画を持ち寄り、講師・受講者・学内の協力教員を交えて活発な意見交換を行いました。

看護学部FD委員会は、今後も若手教員の効果的な教育・サポートに向けて、継続して取り組んでまいります。



ディスカッションする講師の八島教授（右）



講演する茅喜田教授

平成28年度第2回看護学部・看護学研究科FD開催

平成29年1月5日（木）看護学部講義室において、大阪大学全学教育推進機構・准教授の佐藤浩章氏をお招きして、各教員が担当する授業の内容を振り返り、改善につなげることを目的として、看護学部・看護学研究科FDが開催されました。

授業アンケートは、学生の学びの状況を調査し、結果のフィードバックを通して学生と教職員間のコミュニケーションを図るものであり、アンケートの結果を活用することで効果的な授業改善につながり、大学教員にふさわしい専門的な知識を形成する方法の一つとしての意義があると説明がありました。セミナーでは、他大学での取り組みについて紹介があり、看護学部の現状や改善点についてグループディスカッションを通して活発な意見交換が行われました。



ディスカッションする参加教員

看護学部FD委員会は、今後も教育研究の質向上に積極的に取り組んで参ります。

平成28年度愛知県災害医療コーディネーター研修開催

平成28年12月25日（日）愛知県医師会館において、本学を始め、愛知県及び愛知県医師会の三者共催による平成28年度愛知県災害医療コーディネーター研修が開催されました。【写真】

県内における医療調整機能の強化を図ることを目的として、地域における災害時に医療チームの派遣調整、患者の受け入れや搬送の調整を担当する医師等を対象に、その活動に必要な知識の習得と県共通の認識を共有するための研修プログラムが実施されました。講師には、昨年度と同様に災害医療ACT研究所の方々を招へいし、研修を運営して頂きました。

研修会には、地域災害医療コーディネーターを始め、県内の保健所や各地域の医師会から36名の参加者が集まり、災害想定等を各地域の地図に書きながら、救護計画の策定や本部運営・救護班調整演習等を行いました。



世界糖尿病デーin愛知医大 開催

平成28年11月14日（月）～18日（金）の期間中、中央棟オアシスホールにおいて、糖尿病療養支援チーム主催により糖尿病予防の啓発を目的とした「世界糖尿病デーin愛知医大2016」が開催されました。

糖尿病の方に限らず、教職員を始め、一般の方を含めた全ての来院者を対象にポスター展示、糖尿病ミニセミナーに加え、今年は血糖測定体験、飲料や食事のカロリー表示の展示、職員食堂及び病院レストランに協力頂き、ヘルシーランチの販売を行いました。

ポスター展示には1,100名、糖尿病ミニセミナーには41名、血糖測定体験には687名と前年以上に多数の方に参加頂きました。血糖測定を行った687名のうち、糖尿病型または糖尿病に分類された方が59名で、治療中28名、未治療31名と半数以上の方が未治療という結果でした。また、職員食堂での共催ヘルシーランチも毎日完売し、好評でした。

イベントをきっかけとして、多くの方に「糖尿病」について関心を持って頂く良い機会になりました。



ポスター展示



血糖測定体験

平成28年度医療安全推進週間イベント開催

医療安全管理室では、平成28年11月28日（月）から12月2日（金）までを本院の医療安全推進週間として各種イベントを開催しました。

厚生労働省は、平成13年より患者の安全を守るために幅広い関係者が参画して、体系的かつ広範な取り組みを推進することを求めており、本院では今回が初めてのイベント開催となりました。

第1回のテーマを「転ばない・転ばせない・骨折しない」として、期間中には中央棟2階の特設ブースにおいて、川柳50句の発表、転倒・転落予防体操の実演やグッズ紹介、DVD放映、食事や薬の供覧などを行いました。体操の実演は、リハビリテーション部の理学療法士が、食事の解説は栄養部の管理栄養士が担当しました。

イベントには、外来・入院患者さんに留まらず、見舞いに来られたご家族やご友人など多くの方にお越し頂きました。



理学療法士による体操の実演

医療安全管理室では、患者安全の確保・推進のためにこれからも色々なイベントを行ってまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

平成28年12月8日（木）午後1時30分から8 A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました。【写真】

当日は、ボランティアグループによる紙芝居やバルーンアート、ハンドベル演奏などイベントが盛りだくさんでした。

最後にサンタクロースから子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡されました。プレゼントを手にした子供たちは、満面の笑みを浮かべ、またご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができましたようです。



献血ご協力ありがとうございました

平成29年1月16日（月）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、平成29年6月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いします。

冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 35名
・ 献血できた方	・ 28名 (400ml・24名)
・ 献血できなかった方	・ 7名

成瀬誠高度研究機器部門統括主任 医学教育等関係業務功労者表彰受賞

医学部総合医学研究機構・高度研究機器部門の成瀬誠統括主任【写真】が、平成28年11月22日（火）に文部科学大臣から医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々に授与される、医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

表彰を受けた成瀬統括主任から「この度、このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄なことと存じます。これも高度研究機器部門を始め、多くの研究者の方々のご指導、ご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げます。今後、本学の研究の発展に少しでもお役に立てるよう努力して参りたいと思います。」と喜びの言葉を頂きました。



衛生学講座 柴田英治教授（特任） 建築物衛生管理教育センター会長表彰受賞

衛生学講座の柴田英治教授（特任）【写真】が、平成29年1月19日（木）日本教育会館一ツ橋ホールで開催された第44回建築物衛生管理全国大会において、建築物衛生管理教育センター会長から表彰を受けました。

柴田教授（特任）は、建築物環境衛生管理技術者の国家資格を取得するため、厚生労働大臣の指定を受けた（公財）日本建築衛生管理教育センターが行う登録講習会の講師を務め、国家試験に携わるなど、多年にわたり建築物の環境衛生管理に関する業務の向上と発展に大きく寄与された功績により、表彰されました。

表彰を受けた柴田教授（特任）から「今回の表彰は学問的な業績に与えられたものではなく、わが国の建築物の良好な環境衛生を維持するための国家資格制度の維持に貢献したことに対してのものです。環境衛生を研究する者としてのささやかな社会貢献であり、この制度で中



心的な役割を果たしている指定機関の建築物衛生管理教育センター長からの表彰は、この活動が評価されたもので、有難いことと思います。」と感想がありました。

衛生学講座 松永昌宏講師 日本公衆衛生学会総会ポスター賞受賞

衛生学講座の松永昌宏講師が、平成28年10月26日（水）～28日（金）にグランフロント大阪で開催された第75回日本公衆衛生学会総会において、ポスター賞を受賞しました。

同賞は、若手研究者の育成を目的として、一般演題の中から40歳以下の発表者に与えられるもので、松永講師が発表した「青年の幸福感に関連する心理的・遺伝的要因の検討」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた松永講師から「衛生学講座に赴任して初めて公衆衛生学の分野で学会賞を頂きました。自分の研究がこの分野で高く評価されたことを大変嬉しく思います。これからも、鈴木教授、柴田教授（特任）を始め、衛生学講座員と力を合わせてより良い研究ができるように精進していきたいと思います。」と感想がありました。



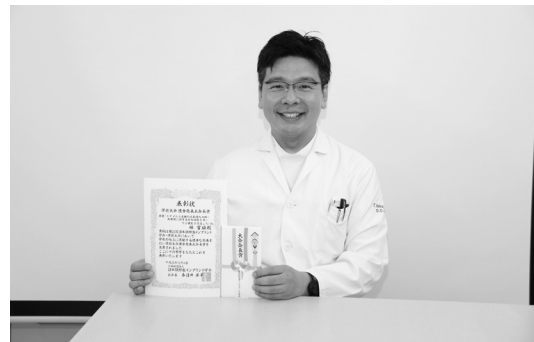
左から柴田教授（特任）、松永講師、鈴木教授

歯科口腔外科 林富雄助教 日本顎顔面インプラント学会・学術大会 学術大会優秀発表大会長賞受賞

本院歯科口腔外科の林富雄助教【写真】が、平成28年12月3日（土）・4日（日）に東京医科歯科大学M&Dタワーで開催された第20回日本顎顔面インプラント学会において、学術大会優秀発表大会長賞を受賞しました。

同賞は、同会で発表された口演発表の中から、林助教が発表した「エナメル上皮腫の広範囲な切除・再建後に顎骨支持型補綴を用い咬合機能を回復した1例」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた林助教から「栄えある賞を頂き、大変光栄に存じます。ご指導頂きました歯科口腔外科の風岡教授、山田准教授を始め、医局員の皆さまに改めて御礼申し上げます。今後は、歯科口腔外科の更なる飛躍・発展のため、臨床・研究に精進して参りたいと思います。ありがとうございました。」と感想がありました。

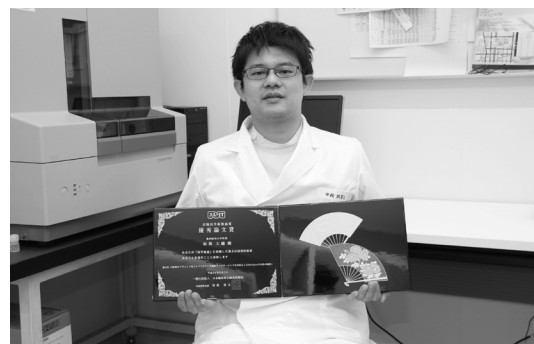


感染制御部 坂梨大輔主任 日本臨床衛生検査技師会学術奨励賞・優秀論文賞受賞

本院感染制御部の坂梨大輔主任【写真】が、平成28年9月3日（土）に神戸国際会議場で開催された第65回日本医学検査学会において、日本臨床衛生検査技師会学術奨励賞・優秀論文賞を受賞しました。

同賞は、坂梨主任が発表した「6種類のプラスミド性カルバペナーゼ遺伝子スクリーニングを目的としたMultiplex PCRの検討」が、2015年会誌「医学検査」に掲載された論文の中で学術的に優秀であると高く評価されたものです。

表彰を受けた坂梨主任から「栄誉ある賞を頂き大変光栄です。三嶋廣繁教授を始め、お力添え頂きました各先生のご指導の賜物と厚く御礼申し上げます。これを励みにより一層精進し、院内、地域の感染制御に貢献する所



存です。今後ともご指導、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。」と感想がありました。

事務職員資格取得

事務部門における、正確かつ効率的な業務遂行能力を高める人材育成の一環として、学校及び病院の運営に必要とされる実務知識の習得を目的とした、資格・検定取得に積極的に取り組んでいます。平成28年は計4名の職員が、各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。

習得した知識を業務に活かして頂き、引き続き更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



ビジネス文章技能検定 3級, 2級	総務部総務広報課 後藤未来主事
知的財産管理技能検定 2級	総務部研究支援課 古山昂勢主事
VBAエキスパート Access VBA Basic VBAエキスパート Excel VBA Basic	看護学部事務部教学課 野々健太主事
秘書技能検定 3級	法人本部人事・厚生室 波頭あかね主事



医学情報センター（図書館）

図書館利用講習会開催

平成28年10月28日（金）午後5時30分から大学本館302講義室において、公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団常務理事兼事務局長、弁理士の丸山修氏を講師に迎え、医学情報センター（図書館）主催による図書館利用講習会「デジタル・ネットワーク社会における著作権」が開催され、18名の教職員の参加がありました。

講演では、まず、著作権侵害及び著作権法、著作権の制限など基本的な考え方について説明があり、著作権侵害を回避する上でのポイントを解説頂きました。続いて、

デジタル・ネットワーク社会における著作権については、Webのリンクによる引用、eラーニングでの著作物の利用、書籍等の電子ファイル化等の問題について判例を交えながら、教職員や学生がどのように対応すべきか説明がありました。最後に、参加者から著作物の取扱いについて質疑応答がありました。

医学情報センター（図書館）には、講演と関連した著作権に関する図書を所蔵しており、今後も定期的に講習会を開催する予定です。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会 第4回主催公演事業

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、入院・通院患者さんを始め、地域の方々へのサービス事業の一環として、定期的に主催公演事業を開催しています。今回、平成28年12月3日（土）に第4回主催公演事業が開催されました。

中央棟2階において開催されたコンサートでは、最初にKEIKO&KOUJIによるコンサート、続いて、「東洋と西洋の出会い」と題して、ピアニストの丸山晶子さんとソプラノ歌手の寛真美子さんによる歌と演奏、モンゴル演奏家二人による馬頭琴とホーミーの演奏、最後には4名の即興でのコラボで観客と一緒に「ふるさと」を合唱し、大盛況でした。

中央棟2階レストラン「シトラス」では、がん哲学外来カフェとして、メディアにも多数ご出演されている順天堂大学医学部教授（病理・腫瘍学）、一般社団法人が

ん哲学外来・理事長の樋野興夫先生による、「がん哲学外来～小さなことに、大きな愛をこめて～」と題して講演会があり、多くの参加者が話に聞き入っていました。講演後は、樋野先生を囲んで、参加者同士が楽しそうに談笑する姿があちらこちらで見られました。

「体験教室」では、平成28年7月に開催された第2回主催事業開催時に大変好評だった、植物オイルによるハンドマッサージ（池田明子学校長によるミニ講話）を始め、毛髪技能士による頭皮チェック、お茶の美味しいいれかた教室、絵手紙教室が開催され、どの教室も多くの参加者で賑わい、いずれも好評でした。

中央棟2階の特設コーナーでは、恒例となったJAあいち尾東の全面協力を得て「産直販売（野菜）」が行われ、こちらも大変好評でした。



がん哲学外来カフェ



コンサート「東洋と西洋の出会い」



絵手紙教室



植物オイルによるハンドマッサージ



産直販売（JAあいち）

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

前号から、大学・病院で活躍する職員を紹介するため、新シリーズ「スマイル」がスタートしました。

「スマイル」では、職員たちの笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

病院病理部

病院病理部は、中央棟4階の立石池に面した場所に位置し、臨床検査技師8名、臨床技術員1名で、病理診断科の医師（病理医）5名が兼務し、病理組織検査、細胞診検査、術中迅速組織検査、免疫組織学的検査、遺伝子検査などを高度な技術を駆使し、患者さんに質の高い医療を提供しています。

病理組織検査は、患者さんから採取された組織を様々な過程を経て、顕微鏡で観察するための標本を作製します。その標本を病理診断科の病理医が観察し、組織診断を行います。的確な診断には、より良い標本の作製が不可欠なため、私たち技師は、常に技術の習得・向上を目指しています。

細胞診検査は、喀痰や尿中の細胞、子宮頸部、内膜などから直接採取された細胞や乳腺、甲状腺などから穿刺吸引して採れた細胞を標本にし、顕微鏡でスクリーニングを行い、良性・悪性の判断をします。細胞診のスクリーニングは、臨床検査技師の中でも「細胞検査士」と言



う認定資格を持った技師が行います。病院病理部の技師全員が細胞検査士の認定資格を持ち、4名が国際細胞検査士の認定資格を持っています。

病院病理部の理念と基本方針の中に、標本は患者さんであると記されています。標本の背景には患者さんがいることを念頭に置き、日々業務に取り組んでいます。病理医、臨床検査技師が研鑽し、患者さんのために的確な診断に努めています。

看護学部

病態機能学 教授・三浦裕次

本学に赴任して節目の10年となりました。この間、生化学、感染免疫学、運動の科学、健康保健学、分子生物学、病態治療学、形態機能学、病態生理学、physical assessment、公衆衛生学、小児保健学や感染看護学特論などの多彩な講義や演習を担当してきました。昨年からは、本院先制・統合医療包括センターを兼務し、VIP人間ドック外来を担当し、平成29年からは放送大学の客員教授を併任します。本学へ赴任前は、Johns Hopkins大学にresearch fellowとして4年間勤務した後、NIHに移籍しfederal employeeとして2年間勤務しました。

私のミッションは「優しさと厳しさを兼ねそなえた教育」と考えています。特に、「厳しさは外から加えられるものではなく、内面に秘めるもの」であると信じています。外から加えられる厳しさに終始すると、「あの先生はうるさいから、あの先生の前では大人しくしよう!」

と見かけだけを装う人間になってしまうことでしょう。

「学問とはわずかな時の間に、数百年の人類の経験を受け取ること」です。これまで先人たちが積み重ねてきた知恵や技術を、教科書を通して学ぶことがとても大切です。一

方で、新たなことにチャレンジしたり、オリジナリティを求めると、常に困難に向き合わなくてはなりません。しかし、このような厳しさの中、失敗を重ねることに真の成長があるのです。

この失敗と苦痛が生きる原動力となり、いずれ人生の危機が訪れても、その経験がサバイバルの礎となっていくと信じています。



「教育・研究最前線」

医療人としての生涯教育の礎を培う基礎科学部門のご紹介 ～数学・物理学～

自然科学，生命科学の基盤となる数学

数学 准教授 橋本 貴宏

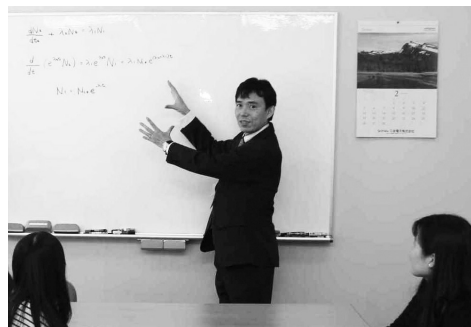
数学は，生命科学を含む諸科学の「共通の言語」であって，その持つ客観性によりEBMの実践において土台となる分野であると言えます。

私の専門は，解析学の1分野「非線形微分方程式論」ですが，本学への赴任をきっかけとして「抽象解析」から「応用解析」へとシフトチェンジしています。臨床及び基礎医学の研究者の方々との共同研究の機会があれば幸いです。

「基盤」としての数学担当科目は，医学部1学年次「医療のための数学」，医学部2学年次（選択科目）「基礎から応用への数学」及び看護学部1学年次（選択科目）「数学」，看護学部2学年次「統計学」です。「基礎から応用への数学」は，1学年次に概論的に講義した統計学を数学的基礎に立ち戻って，学生とともに考えていくセミナー形式の科目です。

もう一つの2年生の選択科目「論理表現入門」は，「外国語」と共同で担当している科目で，数学での「論理」の考え方を日本語の文章表現へと応用させコミュニケーション能力を向上させることを目的としています。「外国語」とは，その他にも「ジャーナルクラブ」の授業にて協体制をとっております。

基礎科学部門の特色を活かした科目である「初年次医科学セミナー」において，近年取り上げたテーマは「算額を中心とした和算」及び「微分方程式と数学モデル」です。



初年次医科学セミナー

平成25年度からは，情報学の授業「医療のための情報学」を数学教室が担当するようになり，同時に情報処理センター研究開発室長も兼任しています。授業では，学生たちがICTリテラシーを学び，パソコンを利用した統計分析手法を身につけることを目標としています。情報処理センターの業務としては，授業支援システムを始めとしたICT学習環境の基盤整備をしています。また，情報学における研究として，初年次教育における共同研究「クラウドシステムを利用した協働学習の教育実践」及び「剽窃を予防する教育実践効果の分析」に参加しています。

医療人に必要な自然科学の基本原則と思考方法を学ぶ

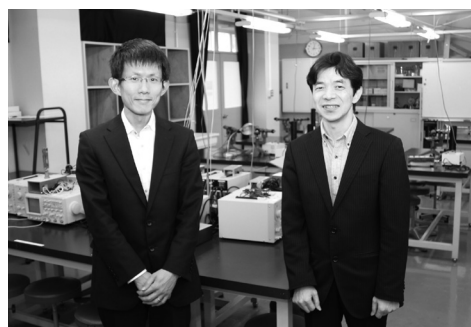
物理学 准教授 仙石 昌也

物理学では，医学部講義の「自然科学演習」，「医用物理学」，「物理学実験」，「科学的思考の方法」及び看護学部講義の「物理学」を担当しています。これら以外にも，医学部では基礎科学の教員全員が担当する「初年次医科学セミナー」を担当しており，平成29年4月からは，新たに「アカデミックリテラシー」を担当する予定です。

物理学は，抽象的で理解するのが難しいという印象があるかもしれませんが，自然現象を記述するための基礎となる学問です。医療の分野で使用される様々な機器や，日々報告される医療関連におけるあらたな知見は，物理学を含む自然科学の基本原則や諸概念，それらの発展に寄与した方法論がベースとなっています。

「自然科学演習」，「医用物理学」，「物理学実験」，「物理学」では，それらの基本原則や考え方について，医療に関連する事項や例を取りあげながら進めています。日々進化している最先端の医療機器も，基本原則をベースに成り立っています。これらの授業ではその入口を少し覗く程度ですが，しっかり身につければ必ず将来役立つ重要な内容だと考えています。

「科学的思考の方法」，「初年次医科学セミナー」，「アカデミックリテラシー」では，様々な課題を通して，主に「読む力」，「考える力」，「書く力」，「伝える力」を鍛



山下講師（左）と仙石准教授（右）

えることを目標としています。受験勉強では公式を暗記して解くという側面がどうしてもありますが，それだけでは，大学での「学び」にはなりません。物理学の教員の立場から，少しでも医学生の大学での「学び」に貢献できたらと考えています。

研究では，私は現在，主に初年次教育で協働学習を効果的に行うための教育実践や医学系の学生に対する物理教育に関する研究と有機物微粒子の生成や構造に関する研究を，山下敏史講師は，物質の根源を探る素粒子論についての理論的研究を行っています。

海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、病理学講座の稲熊真悟講師が海外研修へ参加されましたので、ご紹介します。

稲熊真悟

(病理学講座・講師)

研修課題：肉腫におけるヘッジホッグシグナル系遺伝子の発現と病期、病型、および予後との関連について

研修先：国立衛生研究所（米国）

Laboratory of Pathology, National Cancer Institute, National Institutes of Health

研修期間：平成27年7月21日～平成28年7月20日

この度、私は米国ベセスダにある国立衛生研究所（National Institutes of Health, NIH）に一年間、Guest Researcher（客員研究員）として留学する機会を得ました。NIHは、1887年に設立された最も古い医学研究の拠点機関であり、国立癌研究所（National Cancer Institute, NCI）を始めとして、それぞれの専門分野を扱う多数の研究所、医学図書館や事務局などの組織によって構成されています。

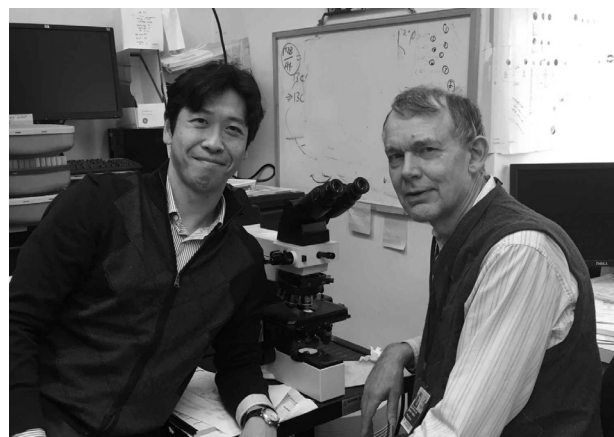
ベセスダは、首都ワシントンD.C.の北西に隣接し、ホワイトハウスからメトロで30分程度の距離です。日本よりも寒暖の差が激しく、冬は -15°C 程度まで気温が下がる日もあります。2016年は年始に60年ぶりの大雪に見舞われ、NIHを含む政府機関は数日間の閉鎖を余儀なくされました。

私は、医学部病理学講座において、ヘッジホッグ（Hh）系転写因子の機能を解析し、その増殖がん・進展における重要性を明らかにしてきましたが、骨軟部腫瘍においても、Hhシグナルによる悪性形質制御の可能性が示唆されています。そこで、軟部腫瘍病理診断の研鑽を積み、同腫瘍におけるHhシグナル関連遺伝子の臨床病理学的重要性を検討することを目的として、軟部腫瘍病理診断の専門家であるDr. Miettinenの研究室に受け入れをお願いいたしました。

当初の予定では、Clinical Centerに提出される外科病理検体の診断、過去標本の閲覧、臨床病理学的解析を希望しておりましたが、米国における医師免許やビザの制限により、臨床検体・患者情報へのアクセス権を得ることができませんでした。しかしながら、Dr. Miettinenが自ら収集し、組織アレイ化された25,000例を超える腫瘍ライブラリーを使用させて頂き、Hhシグナル系分子のみならず、近年注目されている免疫チェックポイント分子の一つであるPD-L1（CD274）の網羅的発現解析も行うことができました。また、大腸がんにおいては、PD-L1発現と腫瘍幹細胞性との関連も明らかにすることができ、これらの研究結果を病理専門誌に報告いたしました。現在、NCIにおいても、特異抗体やchimeric antigen receptor（CAR）T細胞を用いた新規がん免疫療法の開発が精力的に進められています。そこで、いく



雪のClinical Center (Building 10)



研究室（B1B47）にて、Dr. Miettinenと

つかの標的候補分子についても発現、予後解析を行って参りました。帰国後は、未完成の仕事をすすめつつ、新たに共同研究という形でプロジェクトを立ち上げ、腫瘍生物学と外科病理学、双方を結びつけた研究を目指し、努力しております。

近年、海外へ留学する日本人研究者、医師の減少が指摘されています。また、留学先の研究室からは、外部グラントの取得を受け入れ条件とされることが多くなっています。今回、私は愛知医科大学海外派遣事業の補助を得て留学いたしました。このような制度は他施設では稀であると聞いています。是非ともこの優れた制度を利用し、多くの若い先生方に海外留学をして頂き、自身のキャリア及び人脈の形成を通して、愛知医科大学の発展に努めて頂ければと思います。

最後に、この場をお借りし、快く送り出してくださいました池田洋教授、病理学講座の先生方に深く感謝申し上げます。今後とも、愛知医科大学の発展のために、微力ながらも尽力させて頂きたいと考えております。

学 術 振 興

平成29年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域・終了研究領域)	7	22,000
基盤研究 (B) 一般	6	38,245
基盤研究 (C) 一般	120	229,744
基盤研究 (C) 特設分野研究	2	4,900
挑戦的研究 (萌芽)	18	36,639
若手研究 (B)	43	77,552
合 計	196	409,080

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



中井 葉月

学位授与番号 甲第474号

学位授与年月日 平成28年11月24日

論文題目: 「Prevalence and risk factors of

infections caused by extended-spectrum β -lactamase (ESBL)-producing Enterobacteriaceae (基質拡張型 β -ラクタマーゼ (ESBL) 産生腸内細菌による感染症の疫学とリスク因子)」

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

【開催日】

【会長等】

- ・ 第36回日本核医学技術学会総会学術大会 平成28年11月3日(木・祝)～5日(土) 東 直樹
- ・ 第56回日本核医学会総会
- ・ 日本消化器病学会東海支部第125回例会 平成28年11月19日(土) 春日井邦夫
- ・ 第103回市民公開講座
- ・ 日本統合医療学会第2回愛知県支部例会 平成28年11月27日(日) 福沢 嘉孝

第36回日本核医学技術学会総会学術大会 第56回日本核医学会総会

中央放射線部・副技師長 東 直樹

平成28年11月3日(木・祝)～5日(土)名古屋国際会議場において、第36回日本核医学技術学会総会学術大会を第56回日本核医学会総会と共同開催し、技術学会大会長を務めました。

大会プログラムは“世代・職種を超えた交流の場を設ける”というコンセプトの下、「健康長寿社会をめざして～核医学の挑戦～」をテーマに12のシンポジウム、医学生・研修医向けセミナーや看護フォーラム、放射線技師学生の発表セッションなど3日間にわたり、歴代最高の2,500名を超える参加登録者を迎え盛会でした。

合同特別公演には、ノーベル化学賞受賞者の野依良治先生より「我が国が“科学技術立国”として生き続けるために」と題し、どのような戦略をもって研究と診療、教育を進めていくべきかについて、未来への道筋を課題とともにご講演頂きました。

最終日には、大会終了後に開催した「認知症」をテーマとした一般向け市民公開講座は、1,200名の受講者で賑わいました。長寿の陰にある病への不安が国民の大きな関心事であり、医療の世界に身を置く我々の診療、研究、教育活動の重要性を再認識した大会でありました。

日本消化器病学会東海支部第125回例会 第103回市民公開講座

平成28年11月19日（土）名古屋国際会議場2号館において、日本消化器病学会東海支部第125回例会を開催しました。

本学会は消化器関連の学会の中でも最大規模の地方会で、東海四県から消化器疾患に従事する多くの先生方が参加されます。今回は、シンポジウム2セッション（22演題）と一般演題（95演題）に加え、教育講演4演題、専門医セミナー、ランチョンセミナー2演題、アフターランチセミナーから構成された例会で、多くの若手医師が参加し活発な議論が行われました。また、消化器病学会として女性医師の活躍を支援するために、例会会場に託児所を設け、更に、座長に女性医師を積極的に登用し

内科学講座（消化管内科）・教授 春日井邦夫

ました。当日は634名の参加者を得て、盛会理に終えることができました。

また、翌日である平成28年11月20日（日）大学本館たちばなホールにおいて開催しました「おなかのがんは怖い？怖くない！～消化器がん治療の最前線～」と題した第103回市民公開講座にも多くの方々にご参加頂きました。

末筆となりましたが、本学会の開催に当たり多大なるご支援とご協力を賜りました、一般財団法人愛知医科大学愛恵会、消化管内科同門会春水会並びに関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

日本統合医療学会第2回愛知県支部例会

平成27年10月11日（火）静岡県浜松市のマグナリゾートホテルにおいて、日本統合医療学会第1回愛知県支部例会を開催しました。そのプログラム内で、仁田新一理事長及び渥美和彦名誉理事長による特別講演2演題を拝聴しましたが、いずれの講演内においても日本の統合医療におけるより一層のEBM構築の重要性が強調されました。

愛知県支部会員及びその執行役員・関係者は本講演に鼓舞され、この1年間EBM構築に向けて鋭意努力をして参りました。その結果、平成28年7月14日（木）～15日（金）米国フィラデルフィアで開催された国際薬理学会において2演題が採択されました。

先制・統合医療包括センター・教授 福沢 嘉孝

その成果を、平成28年11月27日（日）マグナリゾートホテルにおいて開催された第2回支部例会において発表しました。開催時間は、9時30分から17時30分まで、参加者も約100名（先着）とこの1年間で約3倍に増加しました。種々口講（萌芽・一般演題、特別講演、要望演題）はいずれも非常にレベルの高い内容であり、名誉理事長・理事長・会員の皆さまからも好評を博しました。

来年度に向けて第3回支部例会（設立3周年記念）の開催を企画・検討中で、会員以外の医療従事者の方々に統合医療（先制医療を含む）にご興味のある方々の参加も大歓迎しますので、今後ともご支援・ご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

医学教育分野別評価推進委員会規程の制定等

医学部における医学教育分野別評価受審準備等に関連して、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成28年12月1日（一部の規程については平成28年10月13日）

【新規制定】

- ・愛知医科大学医学部医学教育分野別評価推進委員会規程
- ・愛知医科大学医学部附属医学教育センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部附属医学教育センター規程
- ・医学教育センターの部門の組織等について

医学部 I R 室規程の制定

愛知医科大学医学部 I R 室規程が制定され、本学における教育・研究に関する情報収集・分析を行い、教育研究活動の計画策定等を支援していくことを目的として、I R 室が設置されました。

施行日は平成29年1月1日

看護学部臨床教授等に関する規程の一部改正

愛知医科大学看護学部臨床教授等に関する規程の一部が改正され、看護学部臨床教授等の職務内容、選考基準等が整備されました。

施行日は平成29年1月1日

研究活動上の不正行為の取扱いに関する規程の一部改正

愛知医科大学研究活動上の不正行為の取扱いに関する規程の一部が改正され、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、研究活動上の不正行為に係る調査結果の公表基準が整備されました。

施行日は平成29年1月11日

医師事務作業補助者業務規程の制定

愛知医科大学病院医師事務作業補助者業務規程が制定され、本院における医師、医療関係職員、事務職員等の間での業務の役割分担を推進し、医師の負担軽減に対する体制を整備することを目的として、医師事務作業補助者の業務等が定められました。

施行日は平成28年12月1日

医薬品採用等取扱規程の一部改正

愛知医科大学病院医薬品採用等取扱規程の一部が改正され、各種医薬品の採用手順等が整備されました。

施行日は平成28年12月1日

院内がん登録委員会規程の一部改正等

病院におけるがん診療連携拠点病院指定準備等に関連して、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年1月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院院内がん登録委員会規程
- ・愛知医科大学病院院内がん登録実施要綱